

読者のページ

財政破たんした夕張市で 市立総合病院を引き継ぐ医師

むらかみ ともひこ
村上 智彦さん

財政再建団体になった北海道夕張市で、四月から公設民営化される市立総合病院の運営を引き継ぐ。一月から勤務。「医師任せで自分の病気を勉強しないのは駄目」と、患者に接する姿勢には時折厳しい面ものぞかせるが「信頼できる先生」と慕われている。

北海道旧歌登村(現枝幸町)生まれ。近くに病院がないため近所の人がじくなるのを見て、地域医療の道を選んだ。先端医療もなく、医師もいない地方で経験を積んできた。旧瀬棚町(現せたな町)の診療所では、肺炎球菌ワクチン接種に対する公費補助の実現に貢献、高齢者の医療費を大幅に減ら

ひと

した。その実績から「北のDr.コト」
とも呼ばれる。

六十五歳以上の高齢者が四割を占める同市で、病院運営には困難も予想されるが、決意は固い。最初に取り組むのは健康に対する住

民意識の改善。「意識の低さが病気を招き、結果的に医療費が膨らむ」と指摘する。肥満防止のための運動教室開催や禁煙指導など予防医療に力を入れる。

「民間からの資金調達で財務基盤を安定させたい」と、債券発行や収益事業の実施が認められる「社会医療法人」格の取得も計画している。

見据えるのは高齢化がさらに進んだ将来の日本。「夕張は日本のパイロットケース。ここでの取り組みは将来絶対役に立つ」と意気込む。

運営の引き継ぎや診察で忙しく、札幌市内の自宅に帰る暇がない。「妻と子どもにはプレゼントで機嫌を取っている」そうだ。四十五歳。



民間の資金調達で財務基盤安定させたい。